



ひかりのこ

2020年度 11月号

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 HP: <http://www.13.plala.or.jp/n-sinsei-church/>

朝夕の空気、空の青、夕暮れの黄昏、虫の声、それぞれが一気に秋らしくなり、日が暮れるのも日に日に早くなっています。季節の移り変わりに自然の偉大さを感じますね。

今月の礼拝 単元7: 族長たちの時代

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00 ~ 9:30	分級 I (小1~小4) 分級 II (小5~中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00 ~ 10:20
11月1日	ヤコブの帰郷	創世記 31:1-18、 32:1-33:11	武岡路実	(I:様子を見て行きます) II:武岡路実	武岡 基
11月8日	夢を見るヨセフ	創世記 37章	安達正樹牧師	(I:様子を見て行きます) II:安達いづみ	安達正樹牧師
11月15日 子ども祝福式	大臣になるヨセフ	創世記 39章-41章	林 小夜子	(I:様子を見て行きます) II:武岡 基	安達いづみ
11月22日 収穫感謝日	兄弟を赦すヨセフ	創世記 42章-45章	武岡 基	(I:様子を見て行きます) II:武岡路実	武岡路実

単元8: 救い主の降誕

11月29日 アドベント	マリアへの御告げ	ルカ福音書 1:26-38	安達正樹牧師	(I:様子を見て行きます) II:武岡路実	武岡 基
-----------------	----------	------------------	--------	--------------------------	------

11月以降の教会学校

分級II (小5~中高生)では、クリスマスに向けてフェルト製のオーナメント(ツリーなどへの飾り)作りを始めました。手芸・工作が得意な人、得意でない人も、ぜひ参加してください。

分級I (幼児~小4)は様子を見ながら、クリスマスに向けてのプログラムを検討中です。

子ども祝福式 11月15日(日) 10:30~11:45

大人の礼拝の中で「子ども祝福式」を守ります。これは、教会に集う子どもたちの健やかな成長を教会員全体で祈ると共に、子どもたちが神さまからの祝福を受ける式です。

いつもの朝の礼拝もありますが、出席できる人は引き続き大人の礼拝へも出席してください。

収穫感謝礼拝 11月22日(日) いつもどおりの教会学校礼拝・こどもれいはい

野菜や果物を持ち寄り、神さまからの恵みに感謝します。



教会学校クリスマス礼拝・祝会 12月13日(日) 13:30~15:00

金城学院高等学校キャラバン隊のみなさんによる人形劇が今年もやって来ます♪

今年は「3密」を避けるため、いつも教会に来ているみなさんを対象に催します。詳細は次月号

今月の聖句

主に従う人の救いは主のもとから来る

(詩編 37:39)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 137 (かみさまにかんしゃ)

讃美歌21...490

実りの秋。日本基督教団の暦で11月第4週の日曜日は「収穫感謝日」です。この時期、キリスト教に限らず、さまざまな宗教で、また世界各地で、収穫を祝い感謝する行事やお祭りがあります。いずれも、収穫を祝うだけでなく、神さまに感謝する行事やお祭りです。

穀物や野菜といった収穫物だけでなく、私たちは神さまからたくさんの恵みをいただいています。そのことに感謝する讃美歌が今月のさんびか「かみさまにかんしゃ」です。

作詞者の花房泉一さん(1928-1999)は、東京都出身で牧師の子として育ち、東京神学大学大学院を出て、福島の喜多方教会で牧師を務めたのち、東京の左内坂教会では牧師、幼稚園園長として幼児教育にも尽力されました。『こどもさんびか』『こどもさんびか2』(1983)の編集委員として参加され、また「こどものさんびか同人会」をつくって曲集『こどものさんびか』(龍吟社)を出版した一人で、歌集には多くのすぐれた作品が残されています。

作曲者の小山章三さん(1930-2017)は、度々このコーナーでも紹介しているように、たくさんの賛美歌を手がけています。彼は、学生時代に、当時教会のなかった長野県の小さな町で開かれていた家庭集会で初めて賛美歌に出会い、1963年に受洗しました。その後、国立音楽大学を卒業され、高校や大学で音楽教師として働かれました。恩師である岡本敏明氏の召天後、彼は讃美歌委員を務めていました。この賛美歌について彼は「ある日の讃美歌委員の会議に出された『かみさまにかんしゃしましょう』は、席上で歌詞を読んでいるうちにメロディーが浮かんできた。『作曲は作曲で…』という岡本先生の教えを実行してできた歌だと思う。『こどもとおとなと一緒に歌うさんびか!』何と素晴らしいことでしょう。」と語っています。『讃美歌21』にも掲載されています。

「よいものを」という箇所にはいろいろな言葉を当てはめることができます。私たちが神さまからいただいた恵みはたくさんあり、神さまに感謝することは数え切れないほどたくさんあります。収穫感謝であれば「穀物を」「お野菜を」「くだものを」と歌えますし、他にも「イエスさまを」「ともだちを」「平和を」と、その時々に合わせて言葉を入れて歌うといろいろな場面で幅広く歌える歌になります。みなさんはどんな「〇〇を」と歌いますか?



おたんじょうびおめでとう🎂

11月生まれのお友だち

ハロウィンってキリスト教?!

近頃は日本でもハロウィン(Halloween)が定着してきました。アメリカのテーマパークの影響だとも言われています。「アメリカのもの」=「キリスト教のもの」と思われがちですが、ハロウィンはキリスト教の影響を多少受けてはいるものの、実はキリスト教から発生した行事ではないのです。もともとは古代ケルト人(現代ではアイルランドやスコットランドなどにケルト系の民族が多い)の風習です。彼らは宗教的には自然崇拝で、この10月31日には収穫を感謝すると共に、先祖の霊が家族を訪ねてやって来る(日本で考えると「お盆」と考えられていました。その後、古代ローマ文化やキリスト教などヨーロッパの様々な文化の影響を受けました。キリスト教的には、カトリックでは11月1日が「諸聖人の日(古くは「万聖節」)」として大切な日であり、プロテスタントでは10月31日は「宗教改革記念日」であるので、いずれもキリスト教の教会ではこのハロウィンを受け入れることはしませんでした。アメリカへ移住した当初の人たちの多くはプロテスタント(ピューリタンなど)の人たちだったので、アメリカ移住が始まった頃にはアメリカでもハロウィンはありませんでした。19世紀にアイルランドやスコットランドからの移住が多くなりアメリカへもハロウィンが「輸出」され、その後、次第にアメリカ全土へと広まっていったのでした。今でもアメリカの厳格なキリスト教の地域や学校では「ハロウィンを行わないように」と通達が出るところもあるそうです。